

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 12月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	34715003957
法人名	株式会社 ホンダニマルヨシ
事業所名	グループホーム木之庄
所在地	広島県福山市木之庄町3-3-17 (電話) 084-923-7163
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成21年12月27日

【情報提供票より】(21年11月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8 人
職員数	13 人 常勤 2人, 非常勤 10人, 常勤換算 5.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,033 円		

(4) 利用者の概要(11月 5日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	81歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福山医療生活協同組合城北診療所・おきとう歯科・岡田クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設近隣は、住宅地でスーパー、ドラッグストア、公園、川があり買物や散歩に出かけるのに環境が整った所に位置している。施設理念として「心身ともに健康で思いやりのあるグループホーム」という理念を掲げ、職員の心構えとして「3つの喜びと安心」「入居者の喜びはご家族の喜びと安心です その喜ぶ姿はスタッフ全員の喜びです」を実践し、利用者に家庭的で思いやりのある手厚いケアを実施している。管理者は、地域に認知症アドバイザーとしての講演や相談に積極的に取り組み地域に貢献している。また、終末期のあり方について、積極的に取り組み職員全員で方針を共有し手厚い看取りを実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で示された項目「市町村との連携」については、他の方の意見も踏まえながらホームで出来る事について前向きに取り組み改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者の作成した自己評価案に職員の各携わっている部分について意見を求め集約している。評価内容については管理者・職員が会議を開きホーム全体のサービスの質の向上に生かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議ではホームの概況や日課、ケアの課題、自己評価、外部評価への取り組みや行事について報告され、町内会長・民生委員・管理者・職員・家族・本人が出席し質問や意見・要望等が出され活発な意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームは家族の意見を大切に受け止め取り入れたいとの思いを持っており、家族の訪問時や電話などできめ細かな連絡、聴取をおこなっている。定期的にホーム便りで行事内容や活動の様子などを知らせている。玄関に御意見箱を設置し、また家族からの訪問時の意見や要望は、毎月行う全体会議やケア会議で報告され、利用者とのホームの運営に生かす取り組みをしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として町内会に加入し、町内会行事に参加したり、秋祭りにはホームに立ち寄っていただき参加し交流を図っている。また公民館でグループホームの活動状況報告や「認知症について」「高齢者なんでも相談会」など管理者が講師役を務め地域の人々との交流に努めている。近隣の中学生が訪問されゲームやお話で楽しいひと時を過ごされ交流をしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設理念として「心身ともに健康で思いやりのあるグループホーム」という理念を掲げその人らしい生活の支援をしている。また、「3つの喜びと安心 入居者の喜びは ご家族の喜びと安心です その喜び姿はスタッフ全員の喜びです」を事業所独自の理念としてつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員が一番目に付きやすい場所に大きく掲げている。管理者も職員も毎朝出勤時には必ず目を通し、毎月の職員会議でも話し合い確認している。利用者の元気で楽しく明るい生活を目指し日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館での会合に参加し地域密着型サービスの活動について理解を深めていただいている。地域の行事として秋祭りが町内を練り歩く時、施設に立ち寄り入居者の方と触れ合い地域の住民と交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己評価・外部評価を実施する意義をよく理解している。前回の外部評価での指摘事項については、前向きに検討し具体的な改善に取り組んでいる。また評価の意義については、職員会議で全職員に周知し話し合いをして取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ホームより利用者の日常生活や活動状況等の説明が行われホームへの理解をいただいている。町内会長・民生委員・施設長・職員・家族が出席し質問や意見・要望等が出され活発な意見交換が行われている。検討事項や懸案事項については継続検討されている。		運営推進会議に会議の参加者を広げるために、地域の方の参加を呼びかけたり、行政・警察・消防署・地域包括支援センターに協力して頂くように案内をしたり、定期的に関催されることを期待します。

グループホーム木之庄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスの提供に当たり多くの課題について市介護保険課に相談している。地域包括支援センターでの会合に出席し、地域密着型サービスの活動「高齢者何でも相談会」「認知症とは」について説明をしている。市町村と連携してサービスの質の改善に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月全家族が来所され面会時に、健康状態・金銭管理状況・介護・看護状況や暮らしぶりを報告している。毎月「木の庄だより」を発行し家族にホームでの状況を報告している。また、体調の異変時にはその都度電話等で連絡を取り対応している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見・要望・不満・苦情が話し合える機会を設けている。また来訪時に、家族と話し合いを行ったり、玄関に御意見箱を設置し意見があれば記載できるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動も無く離職者もない。管理者は日々の利用者の様子を見ると共に職員の様子も見守り、何か変化があれば声掛けをしている。常に職員同士助け合い、シフト変更や緊急時の対応にも全員で協力し合っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、地域のグループホーム連絡会に参加し研修を重ねている。また年間研修計画を立て外部研修会にも習熟度に応じて施設より研修に参加している。内外研修は伝達研修を行い職員間の情報を共有し、サービスの質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福山地域のグループホーム連絡会やタウンミーティングに出席し管理者のみならず、職員の相互実習や研修を通じて同業者としての悩みや意見・情報交換の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホーム見学や昼間の体験をして、本人と合っているか家族と話し合いながら、職員や他の利用者と場の雰囲気に徐々に慣れていただくようにしている。また職員が自宅や利用している事業所に出向いて話を聞いたりしている。入居後も落ち着かれるまで家族の協力を得たり出来る仕事をしてもらいながら馴染んでもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>管理者と職員は日々の生活が利用者の意向が尊重された生活を第一とし、声掛けから衣食住・介護まで関わりが発生する場面では情緒を大切に受け答えを心がけている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの人生暦や趣味・趣向など把握に努め、それぞれの希望や思いをかなえられるよう努めている。食事の配膳や片付け庭のプランターの水やり、洗濯物の片付け等、見守りながら支援している。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の意向や希望が聞き取られ、管理者・職員・提携医療機関の助言を交えながら課題や目標を設定しより良い介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しは6ヶ月に1回であるが急変時や状態に変化があった時は、その都度見直しを行っている。毎月の全体会議や毎朝のケア会議で職員から気になることなど意見を聞き取り、生活の援助へ結びつける取組がされている。</p>		

グループホーム木之庄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の医療機関と医療連携体制の契約を結んでおり、24時間いつでも医師と連絡可能な体制の確保がされている。また外泊支援や通院時の対応等柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週月曜日提携先の医療機関に往診に来ていただいている。また急変事にもかかりつけ医に24時間体制で適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から終末期の対応など家族と相談し、本人、家族の要望に添って支援している。かかりつけ医とも密に連携をとっており職員間の情報共有を図っている。ターミナルケアはすでに何人も経験されており、職員の対応は準備が出来ている。		看取りに対しての経験を何回かされており、看取りについて介護職員全員が、その時どうすべきか介護の仕方、心のもち方など研修や準備が出来ており終末期に向けた方針に意気込みを感じました。利用者や家族には、終末期に対しての安堵感に繋がっている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者が人生の先輩であることを常に念頭において、さりげない介護に気をつけ声掛けや対応に配慮している。ホーム内のリビングや居室も利用者の人生の重みと尊厳を深く受け止め、幼稚な飾りつけをせず、落ち着いた雰囲気となっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの一日のペースに合わせて起床、朝食、花壇の水やり、散歩、居間で団欒する人、テレビを見る人など思い思いに過ごされており、職員の暖かな見守りがなされている。		

グループホーム木之庄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備で野菜の仕分けや下ごしらえをしたり、食後の後片付けを職員と一緒にこなしている。また管理者が栄養管理をされ、骨の強化や体質改善に取り組み、きゅうり、かぼちゃなど野菜を中心にかつを節を加えたり、栄養コントロールされ元気な入居者になるよう支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に週3回の入浴である。利用者の希望があれば入浴日以外でも対応している。体調不良等で入浴できない際には、清拭、足浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者本人や家族から聞いた生活歴や趣味など情報をもと、毎日の暮らしの中で一人ひとりの出来ること探しをして、生きがいや喜びに繋がる支援をしている。年齢を重ねても出来る洗濯物をたたんだり、花壇の水やりをして日々楽しく過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣には、スーパーやドラッグストア、介護用品店があり買物に出掛け地域の方と話をし交流を持っている。また近くには公園や小川があり、気候の良い日には散歩に出掛ける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない大切さを認識されており玄関・居室には鍵をかけずに、自由に出入り出来るようにすると共に最大限の安全性を確保し自由な暮らしへの支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施し、内1回は消防署の指導の下で避難訓練を実施している。		入居者の誘導避難経路の確保と確認を職員全体で確認して災害時に備えていただく事を期待します。

グループホーム木之庄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとり個別にチェック表を活用して、毎日の食事量、水分摂取量を把握している。一日当たりの水分摂取量を1500ccを目安に、利用者の嗜好に合わせたもので水分補給するように支援している。野菜中心の食事で繊維質のあるものや水分を多く含むものを利用者に提供しバランスの取れた食事を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間は採光を良く取り入れ食事の場所と寛ぎの場所がほどよい間隔で設けられ、落ち着いた色調の家具や季節感のある装飾が、日々の生活の温もりを感じさせている。また居間にはコタツが配置され利用者が思い思いの時間をゆったりとすごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具や小物・家族の写真・孫の写真を持ち込まれ、利用者や家族と相談しながら飾り付けをし、思い思いに自分らしい暮らしができるよう支援している。		